

福岡 親子の会

つばさ

H13.11.11発行

NO.2



福岡親の会「つばさ」定例会についてのアンケート集計結果(計21枚)

A講演について

1内容についてどう思いますか。

よくわかった:12名 わかった:9名 むずかしい:0名

2時間についてどう思いますか。

長い:4名 適当:16名 短い:1名 その他:*自分のこどもがいなければ、適当だった。

3次回の公演内容についてご要望があればお書きください。

*いろいろな方の体験談をお聞きしたい。

*今回はテープやビデオを見れて良かったと思う。また、手術前、後の写真など、また発音においても練習前と後の様子が見聞きできればいいなと思った。

*前回の体験談では出席できなかったのも、家に届いたレポート?はすごく嬉しかったです。毎回とはいいいませんので、これからも体験談や現在悩んでいらっしゃる方などの話し合いのような場があればと思います。

4その他ご意見があればお書きください。

*大変勉強になりました。

*原因についての質問、回答のやり取りが良かった。

*今まで知らなかったことが良く分かりました。のどのしくみ、言語のしくみが良く分かりました。

*今日の講演は、うちの子どもにも今一番心配していたことなので、とても勉強になりました。スライドなどが少し早く変わるので(時間の関係もあると思いますが)、メモを取りたかったけれど、とれなかったので残念でした。

*専門的な内容で難しいことばも出てきましたが、新たな知識を習得することができて良かったです。有り難うございました。

B懇親会について

1内容についてどう思いますか。

たいへんよい:6名 よい:7名 ふつう:2名 よくない:0名 たいへんよくない:0名

2雰囲気についてどう思いますか。

たいへんよい:4名 よい:8名 ふつう:1名 よくない:0名 たいへんよくない:0名

3次回の催しについてご要望があればお書きください。

*大変なことだとは思いますが、年齢別、地域別での紹介なり、顔合わせができるともっといい関係ができるとも思います。

4その他ご意見があればお書きください。

*懇親会はなかなか話をする所までいかないし、結局知っている人同士座ることになるので難しいなと思いました。

C福岡親の会「つばさ」全般にわたって、ご意見、ご要望があればお書きください。

*これからも現内容の通り、あって欲しいと思います。会費を大人一人につき、500円くらいにしても良いと思います。

口唇口蓋裂のことば

九州大学歯学部附属病院 言語聴覚士 緒方祐子

口唇口蓋裂の「言語障害」と「上顎の劣成長」は、口蓋形成術後のふたつの大きな問題といわれてきました。口唇口蓋裂の「ことば」は、ご家族の皆さんにとって大きい関心事と思われます。ひと昔前は、ことばの問題は大きな問題でしたが、最近では口唇口蓋裂のお子さんが必ず言語障害になるのではなく、予防および治療が可能といわれています。しかし、口唇口蓋裂の方は上記の問題のみではなく、耳鼻咽喉科的な疾患や齲歯（虫歯）に罹患しやすい、咬合不全、心理社会的問題、哺乳・咀嚼・嚥下障害などのいろいろな問題を有するため、治療には言語聴覚士のみではなく、口腔外科、小児歯科、矯正歯科などの関連専門科間での連携を必要とします。

1. 口唇口蓋裂のことばの問題

「ことば」を獲得する条件として、口唇、舌、口蓋などの構音器官の形態と機能、豊かな言語環境、心身発達の3つのことがあげられます。これらがうまく調和して「ことば」は育っていきます（図1）。これは口唇口蓋裂のお子さんのみではなく、すべてのお子さんにあてはまります。「ことば」を育てるためには、よりよい環境整備が必要と思われます。

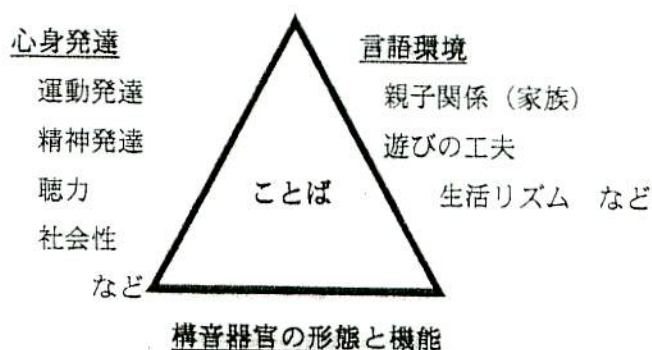


図1 ことばが育つ条件

口唇口蓋裂の子供さんの「ことば」は、まず手術で鼻咽腔閉鎖機能（後述）を獲得し、発音以前の「ことば」の内容（言語発達）を習得し、最後に「ことば」の外側である正しい構音（発音）を学習していきます。この3つが口唇口蓋裂の子供さんには必要です。しかしながら、口唇口蓋裂の子供さんは、①言語発達の遅れ、②構音（発音）障害、③耳鼻咽喉科的疾患などの問題をもっています。

①のことばの発達の遅れに関しては一過性であり、難聴や知的発達の遅れなどがない場合は、しゃべり始めは若干遅い傾向があるといわれていますが、3才過ぎには追いつくといわれています。②の構音障害は、鼻咽腔閉鎖機能の問題がない場合でも、40～50%の方に構音の

問題が生じるといわれます。しかし、口唇口蓋裂の構音障害は、適切な時期に適切な治療を受ければ、正常言語を獲得します。③の耳鼻咽喉科的疾患とは、中耳炎のことです。中耳炎には急性中耳炎や滲出性中耳炎などがあります。痛みを伴い、耳だれが出てくる場合は、まわりの大人は分かりやすいのですが、滲出性中耳炎は、痛みを伴わず、徐々に鼓膜のなかに水が溜まっていき、聴力障害をきたす病気です。口唇口蓋裂の子供さんは60～80%の方が一度は罹患するといわれ、発見が遅いと、聴力の問題から、ことばに悪影響を及ぼす場合があります。また、中耳炎同様、口唇口蓋裂の子供さんは、鼻炎にもなりやすいともいわれています。お子さんの返事に聞き返しが多くなった、テレビの音を大きくして観るようになったり、鼻水がずっと出ている（特に青みを帯びた）などの症状がありましたら、耳鼻咽喉科の受診をして下さい。

2. 口唇口蓋裂の発音（構音）について

ヒトは、飲み物や食べ物を摂ったり、会話をしたり、楽器を吹く時は、呼気（肺からの空気）や食物が鼻に抜けないように、軟口蓋（上顎の奥の軟らかいところ）などで蓋をします。このことを鼻咽腔閉鎖機能といいます（図2）。口唇口蓋裂の方には、この機能がうまく働かずに、声が過度に鼻にかかり、「フガフガ声」（開鼻声）になったり、そのために間違った構音（発音）を習得してしまう場合があります。このことを鼻咽腔閉鎖機能不全といいます。このような鼻咽腔閉鎖機能不全によることばの問題は昔は多くみられていましたが、最近は手術施行の低年齢化、手術方法の向上などにより減少し、おおよそ10%未満の出現率となってきました。

口唇口蓋裂の子供さんの構音障害は、この鼻咽腔閉鎖機能不全に関与するものと、鼻咽腔閉鎖機能は良好だが、口蓋形態などの関与するものがあるといわれています。鼻咽腔閉鎖機能不全に関与する構音障害には、鼻漏出による子音の歪み、声門破裂音、咽頭摩擦音、咽頭破裂音などがあります。鼻咽腔閉鎖機能は良好ですが口腔の形態異常などに関与する構音障害には、口蓋化構音、側音化構音、鼻咽腔構音などがあります。

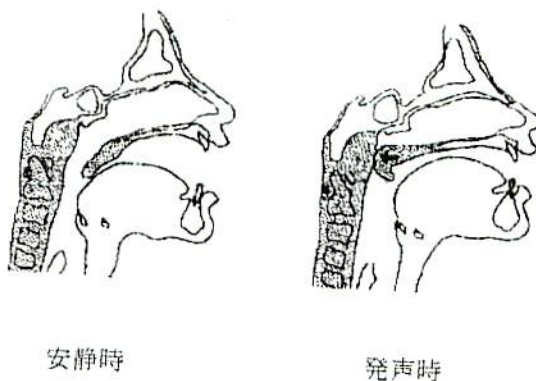


図2 鼻咽腔閉鎖機能

3. 言語治療の実際

口唇口蓋裂の言語治療は、言語障害の予防および治療を目的に行います。その内容はお子さんの生活年齢や発達年齢により異なり、九州大学歯学部附属病院では、年齢や発達時期を考慮して4つのステップにわけて治療を行っています。

① ステップ1：誕生から口蓋形成術の1歳6か月ころまで

この時期は、子供さんに対する言語発達の評価、聴力検査などの治療の他に、ご家族に今後の「ことば」のことを説明し、ご家族や口腔外科、小児歯科などの専門スタッフとともに、よりよい言語環境の整備をします。

② ステップ2：口蓋形成術から4歳頃まで

この時期は、鼻咽腔閉鎖機能、言語発達および構音発達の経過観察、聴力管理の3つの柱にて言語治療を進めていきます。とりわけ、鼻咽腔閉鎖機能の良否はその後の「ことば」に多大な影響を及ぼしますので、ラッパやシャボン玉などお子さんが興味を持つおもちゃを利用して、鼻咽腔閉鎖機能を獲得するように練習をし、構音障害を予防していきます。

③ ステップ3：4歳から小学校入学まで

口蓋形成術後2年ぐらい経つと、その手術の結果が明確になります。それで、4歳頃をメドに言語聴覚士によることばのチェックのみではなく、他のスタッフとともに、鼻咽腔閉鎖機能、構音、および咬合の評価を行います。そして、問題があれば、その問題に応じて治療アプローチを検討していきます。鼻咽腔閉鎖機能の問題があれば、スピーチエイドなどの検討、歯列の狭窄があれば、上顎歯列の拡大矯正の検討を行い、構音障害があれば、その構音障害に応じた直接的な構音訓練を開始します。

④ ステップ4：学童期以降

言語治療の目的は、就学までに正常な音声言語の獲得をすることですが、残念ながら、問題が残る方もおられます。そのような方は、引き続き言語訓練を継続していきます。また、ことばに問題がなくなった方も、即訓練終了というのではありません。まれに、成長とともに、鼻咽腔も大きくなり、開鼻声が出現してくる場合がありますので、中学生まで年1回の定期観察を行います。

4. AちゃんとBさん

ここで、言語訓練を通じて、治療者側も励まされたお二人の方を御紹介します。

Aちゃんは、2歳9か月の時に、発音が不明瞭という訴えで、九大病院にいられました。診断は粘膜下口蓋裂で、その言語症状は鼻咽腔閉鎖機能不全による開鼻声と声門破裂音を呈していました。その明瞭度は、話す内容が知っていれば理解できる程度でご家族以外の方にはことばが通じない状況でした。早速、手術の日程が組まれ、2歳11か月時に

口蓋形成術が施行されました。しかし、鼻咽腔閉鎖機能は改善せず、3歳8か月時にスピーチエイドを装着することになりました。それから、週1回、幼稚園の合間に言語訓練に通院され、小学校2年生になる直前に、スピーチエイドも取れ、正常な音声言語を獲得する事ができました。おかあさんは、「4年間と大変長かったけれども、必ず治るということを信じて頑張ってきました。それが現実となっても嬉しい」と心からいわれています。

Bさんは、左側の口唇口蓋裂で52歳の時に九大病院に来られました。ことばは、いわゆる口蓋裂言語で、鼻咽腔閉鎖機能不全による開鼻声、声門破裂音、咽頭摩擦音を呈していました。電話などの会話は聞き返しが頻繁で御苦労されていました。治療方針は、手術による鼻咽腔閉鎖機能の改善をした後、構音訓練を行っていくことになりました。手術後は週1回言語訓練に通われています。術後1年半が経過し、現在はほぼ良好なことばを獲得することができました。Bさんは、「ことばを治すことは、本人の気合い！自分のことだから頑張れるよ」といわれ、年齢が高いと治りにくいといわれていますが、頑張れば、ことばは良くなることを教えて頂いた方です。

5. まとめ

簡単に、6月の定例会のおさらいをしてみました。口唇口蓋裂のことばの問題は、適切な時期に適切な治療を効果的に効率良く受ければ、正常な音声言語を獲得する事が出来ます。しかし、構音が良くなっても、お友達を作れない、消極的になるなどの問題を残す方もおられます。ことばの最終的なゴールは、きれいな構音ではなく、いかにひとと話し、コミュニケーションを成立していくかということではないかと思われます。そのようなひととの関わり方は、小さい時からの周りの大人の対応がとても重要となります。楽しく友達と話し、よりよい深みのある社会生活を営むために、我々がどのようなことを子供たちに提供できるか、ご家族の皆さんとともに考えて努力していきたいと思えます。

第 5 回 福岡親子の会「つばさ」

夏の定例会収支決算報告

収入の部

参加費	31,500 円 (63 人 x 500 円)
募金	12,723 円
小計	44,223 円

支出の部

ピザ等	6,664 円
飲み物代	2,469 円
雑費	1,850 円
小計	70,986 円

収支合計 -23,763 円

その他

繰越金 127,621 円

総計 100,858 円